

LINKAGE

[繋ぐ]

愛でる Special Issue:

精微な手仕事^しが紡ぐ^ふ 「紙布」に宿る美しさ

拓く C.W.ニコル氏基調講演／ほか
第7回KPP総合展示会レポート

先どる 紙に新たな価値を吹き込む
(株)ロッカの「レーザーカット」

和紙から糸を紡ぐ 美しい織物「紙布」

紙布とは、和紙から糸を紡ぎ、その糸で織り上げた布のこと。

作家・妹尾直子せのお なおこさんがつくる紙布には、

手漉き和紙の持つ精微な美しさと自然素材ならではの温かみがあります。

第一人者である桜井貞子さんのもとの

古くから伝わる紙布の技法と精神を学んだ妹尾さん。

彼女のたゆみない手仕事には、師に対する敬畏と

次の担い手として探求を続ける真摯な思いがありました。

国際紙パルプ商事が発行するTSUNAGU(繋ぐ)は
“紙の魅力再発見”をテーマに、
紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

愛でる P01

和紙から糸を紡ぐ
美しい織物「紙布」

先どる P07

紙に新たな価値を吹き込む
(株)ロッカの「レーザーカット」

伝える P09

映画界の巨匠から届いた
律儀な人柄がうかがえる便り

拓く P11

C.W.ニコル氏基調講演／ほか
第7回KPP総合展示会レポート

出会う+ P13

KPPの海外拠点にクローズアップ
「香港大永」

深める P14

KPPの最新ニュースを
キャッチアップ

訪ねる P15

紙の魅力を体感できる
「ペーパーイベント・カレンダー」

作る 付録

デスクに彩りを添える
「フラワーカレンダー」



4. 揉む

平たい石の上で素早く転がしながら紙を揉む。この作業によって、2ミリ幅の紙1本1本が糸のように丸い紐状になる。



1. 折る

すべての繊維がしっかりと絡んだ楕100%の良質な和紙を4枚1組にし、上部1〜1.5センチの折り返しをつけて屏風畳みにする。



5. 績む

切らずに残しておいた折り返し部分をちぎり、つなぎ目を手で擦りながら細くて長い1本の紙糸にしておく。



2. 切る

特製の定規を当て、2x3版(60x90センチ)の和紙に2ミリ幅の切り込みを入れる。この際、折り返し部分は切らずに残しておく。



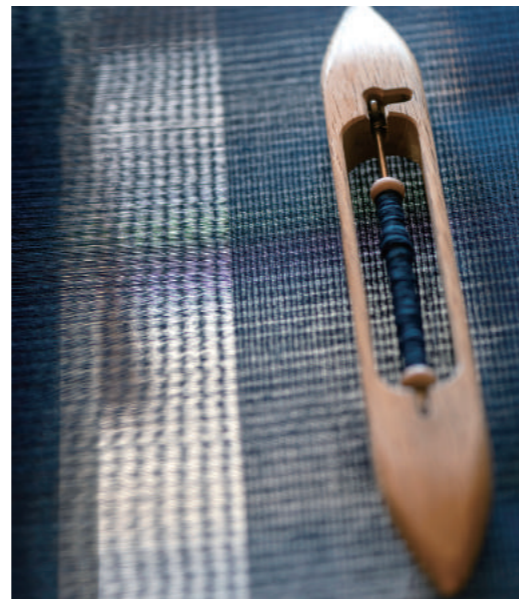
6. 撚る

紙糸を糸車にかけて撚り、煮出してカットした篠竹に巻きとる。紙糸は必要に応じて草木染めしたのち、織り機で織って完成。



3. 湿らせる

切り込みを入れた紙を濡れたタオルで挟み、6〜7時間湿らせる。天候や湿度に合わせて、霧吹きなどで水分を調整する。



伝統的な日本家屋に工房を構え、独自の感性を取り入れた紙布づくりを続けています。

広間に並べられた妹尾さんの紙布作品を見せていただくと、紙でできているとは思えない緻密で美しい仕上がりに驚きます。それでいて和紙特有の温かみと風合い、上品な光沢があり、手で触れた感触は柔らかく、滑らかな心地よさがあります。「今は、着物の帯をつくるご依頼が多いですね。紙布の帯は、紙が身体から出る湿気を吸ってくれるので崩れにくく、締め心地も軽いと評判です。帯のほかに、長襦袢ちまきに付ける白地の半襟はんまきなど、着物をよく着る方からのご注文が多いですが、シャツなど洋服も紙布でつくっています。経糸けいと緯糸わいとともに紙の糸でつくる諸紙布だけでなく、緯糸は紙ですが経糸に絹や麻、木綿糸を使うなど、用途や目的によって経糸を選んでいきます」と妹尾さん。つくる衣服に最適な和紙選びから、紙布づくり、草木染め、はた織りまで、すべての工程を自らの手で行うため、経糸緯糸ともに紙でつくる作品は、約2カ月から3カ月もの時間を要するそうです。

京造形芸術大学で油絵を専攻していた妹尾さんは、授業の一環として取り組んだキャンバスづくりや木版画の実習をきっかけに、日本の風土で生まれた手仕事の道具や材料に興味を持つようになりました。卒業後は、和紙の産地をまわり、日本を代表する越前和紙の工房に就職。職人として約4年間、手漉き和紙を学んだのち沖繩に渡り、約6年半の月日をかけて首里織など織物の技法を習得しました。「沖繩の工房では、蚕の糸を取るところから染織まで、ひとりが一貫して作業させていただきました。知りたいたいと思うことがむしろに学んできて、今後の方向性を考えていた時に雑誌で紹介されている桜井先生の紙布を見て、その美しさに衝撃を受けました」。

良質な和紙と丹念な手仕事。
細くて丈夫な紙糸を紡いでつくる、
機能性に優れた美しい「紙布」。

紙布の創作を支える「西ノ内和紙」

白石紙布の復元に欠かせない高品質の和紙として、紙布作家・桜井貞子さんが選んだのが、350年の歴史を持つ茨城県の西ノ内和紙です。妹尾直子さんの作品にも多く使用されるこの西ノ内和紙について、手漉き和紙職人・菊池大輔さんにお伺いしました。

「ここ常陸大宮市の山間地で栽培される楮は小さく育つため、その繊維は細くて短い。その分、丈夫で光沢のある繊維が取れるため、江戸時代には西日本にも流通するほど人気でした。その楮でつくる西ノ内和紙は、厚手でふわっとした質感が特徴で、桁に溜めた水の中で短い繊維同士をよく絡み合わせることで耐久性のある強い紙に仕上がります。また繊維をなるべく洗わないようにすることで、残った非繊維素が水の侵入を弱める役割を果たすため、水につけても破れにくい防水効果と速乾性があるのも大きな長所です。」



菊池 大輔さん

江戸時代、徳川光圀が領内で漉いた紙はすべて買い取るとしたため、西ノ内和紙は水戸藩の専売品として江戸中に広まりました。また徳川光圀が編纂した「大日本史」にも、この西ノ内和紙が使われています。西ノ内和紙は、紙布や擬皮紙として、地元の庶民の衣服や生活用品にも活用されてきましたが、先代の父が桜井貞子先生から依頼を受けたことをきっかけに、特注の紙布用紙づくりがはじまりました。すべての繊維がしっかり絡んだ薄い紙で、厚さは均一。紗漉きすることで、きめが細かく艶のある紙にするために、試行錯誤を繰り返したそうです。手間がかかる仕事ですが、桜井先生、妹尾さんのお手伝いをさせていただけることを嬉しく思っています。」

※擬皮紙：紙に油を引いて燻蒸し、皮のような風合いと着色を施した紙。煙草の葉やキセル入れなどに加工された。
※紗漉き：柿渋をひいた絹紗を簀（す）に張って漉く技術。簀目すのめや編糸の跡が残らず、滑らかな紙に仕上がる。

西ノ内和紙の専門店 「紙のさと」

紙布用紙や草木染めを施した色とりどりの手漉き和紙から、財布やポーチに加工した雑貨まで、西ノ内和紙関連商品を幅広く製作している専門店。和紙の絵付けができる「漉き絵体験」（要予約／1人1,300円）も楽しめる。



- 住所：茨城県常陸大宮市舟生90
- 交通：常磐自動車道「那珂IC」より車で約40分
JR水郡線「中舟生駅」下車、徒歩5分
- 営業：9:00～17:30（水曜定休・祝祭日の場合は翌日）
- WEB：www.kaminosato.com
- TEL：0295-57-2252



▲経糸に絹、緯糸に紙を使った縮面地。紙布ならではの肌触りの良さを実感できる。 ●経糸・緯糸ともに紙布を使用した諸紙布の帯作品。赤は「アカネ」、黄色は「エンジュ」、ブルーは「インド藍」で染色した。 ●江戸小紋師・菊池宏美さんに型を置いてもらった絹紙布でつくった作品。 ●桜井貞子さんが復元した技法をもとに、妹尾さんが制作した着物（仮仕立て）。



妹尾 直子さん
紙布作家

京都府京都市生まれ。京都造形芸術大学卒業。大学在学中から和紙の世界に魅せられ、卒業後、福井県の越前和紙工房で手漉き和紙づくりに従事。その後、染織を学ぶために沖縄に移住。和紙と織りの両方を深めたいとの思いから桜井さんに師事、茨城県に移住し紙布の制作を行っている。

桜井貞子さんは、仙台藩白石（現在の宮城県白石市）で生産されていた紙布を復元するために、わずかに残る文献から技法を研究、90才を過ぎた今なお、精力的に創作活動を続ける大家です。桜井さんの作品に魅せられた妹尾さんは、知り合いを通じてすぐにコンタクトを取り、桜井さんの元に通い続け、半ば押しかけられるかたちで紙布づくりを「から学びました」。「桜井先生が何十年もかかってたどり着いた答えを、私はただかた2、3年で教えていただきました。だからこそ、つくり続ける時間の中で、たくさん咀嚼してきちんと消化しないといけないと思っています。さまざまな植物の可溶性、繊維素材の研究など、今まで学んだことを振り返り、整理しながら改めて勉強したいです」と話します。

尊敬する師と同様、常に新しいことへの挑戦を続ける妹尾さんは、型染め職人とのコラボで、白地の紙布に伊勢型紙のデザインを合わせる作品づくりに着手しています。優れた伝統を基礎として今日の生活に即したものと進化させる試みが、紙布の新たな展開へとつながるはずと。

第66回 日本伝統工芸展

妹尾直子さんの紙布作品、諸紙布花織帯「木もれ日」が巡回展示されています。

- | | |
|----|---|
| 仙台 | 期間：1/22（水）～27（月）
会場：仙台三越 本館7階ホール
（宮城県仙台市青葉区一番町4-8-15） |
| 福岡 | 期間：2/4（火）～9（日）
会場：福岡三越
（福岡県福岡市中央区天神2-1-1） |



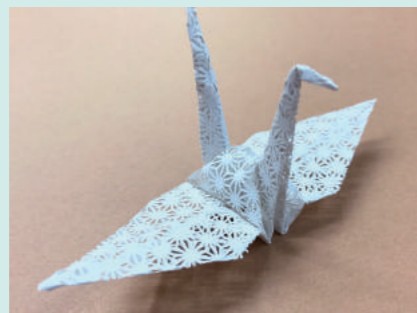
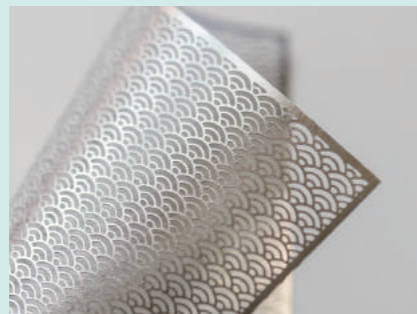
これからの季節に活躍する桜の花びら型のシート。商業施設や店舗の装飾品としても需要が多い。



切り絵のように細かい桜柄の装飾。型抜き加工では難しい微細な表現も、デザインデータどおりに再現できる。

(株)ロッカの加工技術による オリジナル文具を発売

新しいアイデアが詰まった各種付せん(左下)と、和柄文様の透かし彫りを施した新しい千代紙「千代切り紙」。「千代切り紙」は外国人旅行者の人気も高く、「荒川区新製品・新技術大賞」で優秀賞を受賞した。



大型商業施設の吹き抜けに使用されたアート装飾。600ミリ×900ミリのピースをつなげ、全長17メートルの作品として使用された。



商品パッケージ(左)やグリーティングカード(下)などのほか、名刺や商品タグ、会社案内など、レーザーカット加工がさまざまな用途の紙に付加価値を与える。



紙に新たな価値を吹き込む (株)ロッカの「レーザーカット」

(株)ロッカは、製造業が集積するまち、東京都荒川区に工場を構えるものづくりの企業。6台の高性能レーザー加工機を用途によって使い分け、複雑で超微細な彫刻加工を施すことで、紙の付加価値を高める製品づくりをしています。レーザーカットとは、材料の表面にレーザー光線を使って照射する加工法で、通常の紙の抜き加工に使う金型が不要なので、狭い溝幅の高精度な切断が可能。また単に紙をカットするだけでなく、表面だけを削って彫刻のような加工を施したり、筋押し、ミシン目加工など、多様な表現を可能にした加工技術です。(株)ロッカの緻密で正確な技術は2009年の創業後すぐに多くのメディアで取り上げられたこともあり、メーカーや印刷会社、広告代理店やデザイン会社からの注文が殺到。ロゴサインなどのシンプルなカットから、レース調の超微細カットまで、さまざまな注文に応えています。創業から10周年を迎えた(株)ロッカ。その技術と選ばれ続ける理由を社長の馬場将実さんに伺いました。

—レーザーカットをはじめるまでの経緯を教えてください。

義父が経営していた(株)北沢紙業で紙加工職人として、ナンバリング印刷や型抜きの修行をしていたのですが、2002年当時、ナンバリングは機械式だったので、対応できるのは連番のみ。ランダムナンバーやバーコード、QRコードなどの需要は高まりつつあったのですが、それを実現する設備は今以上に高額でとても手が出ませんでした。もう一方の抜き加工で独自性のあるサービスを模索していて、その時に知ったのが、レーザーカットの加工技術でした。しかし、当時の機械は低速で加工に時間がかかるため加工賃が割高でした。それでも当時は扱っている企業が少なかったですし、型抜き加工では難しい微細な表現ができることが魅力的だったので、思い切って導入に踏み切りました。

—業績は順調に伸びましたか？

いえいえ(笑)。営業をはじめましたが、どこにニーズがあるかわからず、飛び込み営業は2カ月であきらめました(笑)。



(左)創業10周年を迎えた2019年に、馬場社長が掲げた同社のコンセプト。(右)同社のレーザーカット加工は、紙だけでなく、木材、アクリルなどの素材にも対応できる。



(株)ロッカ 馬場 将実 社長

1974年生まれ、埼玉県川越市出身。2002年、義父の経営する(株)北沢紙業に入社し、ナンバリング印刷、型抜き加工、ミシン加工、丁合などの製本・加工技術を学んだのち、2009年に独立。新たに立ち上げた(株)ロッカでは、従来の業務に加え、いち早くレーザーカット加工の市場を開拓し、精微でデザイン性の高い製品づくりを続ける。現在は(株)ロッカのほか、(株)北沢紙業、紙製文具の企画・製造・販売を手掛ける(株)バックストリートファクトリーの経営に携わっている。

—好況への転機になったのは何ですか？

創業2年目に、昔からお付き合いのある印刷会社さんからレーザーカットで動物型にカットしたメモ帳をつくりたいとご依頼を受けたことがきっかけでした。レーザーカットは基本的に1枚ずつカットするのがセオリーですが、試行錯誤を繰り返すなかで20枚は焦げることなくカットできるようになって、直感的にこれは売れると確信。2台目の加工機を導入し量産に備えました。

—加工の仕事と並行して文具メーカーとしての事業も手掛けることで、どのようなメリットがありますか？

(株)ロッカとは別に、文具メーカーとして(株)バックストリートファクトリーという企業を立ち上げました。これはその名の通り、裏路地の町工場の仲間たちで協力してつくっているブランドで、人のつながりを生み出すファクターにもなればいいなと思っています。もちろん本業の宣伝にもなってほしいし、利益も出さなければなりません。商品開発から流通、販売までのノウハウを生かして、これから新しいことに挑戦する町工場だったり人の助けになればいいなと思っています。

—今後の抱負を教えてください。

新聞などは1日もしくは数日で役目を終えますが、レーザーカットで微細な加工を施した紙は、いつまでも手元に置いておきたくなる。言い換えれば、「紙を長生きさせる仕事」だと思うんです。これからも手に取った人に驚いていただける、想像を超えた製品をつくり続けていきたいと思っています。



(株)ロッカ

住所：東京都荒川区東尾久1-15-3
TEL：03-6458-2770
FAX：03-6458-2771
HP：<https://www.rokka-p.co.jp>



(株)バックストリートファクトリー

東京都荒川区東尾久2-25-8
TEL：03-6458-2980
FAX：03-5539-9803
HP：<http://backstreet-factory.com>

「手紙」は語る

植村 鞆音

人間は表現する動物だというのが、手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第二十回 降旗 康男

わたしは、大学を卒業して二年ほど東映という映画会社に籍をおいたが、そのせいか、その後テレビの仕事に携わってからも演出家への思い入れは人一倍強かった。誰が作るかを重視するいわゆる作家主義である。

映画会社では企画本部文藝脚本課というセクションに配属となり、プロデューサーを目指した。監督、脚本家よりお金になると聞いたからである。勤務先は銀座三丁目の本社の七階で、そこには内田吐夢、今井正など、巨匠と呼ばれる監督がときどき顔をみせたが、新入社員わたしが直接言葉を交わす機会などなかった。最初に挨拶するようになった監督は、まだ三十歳を出たばかりの深作欣二さんだった。彼は、わたしより八歳年上。その年鶴田浩二主演の「誇り高き挑戦」などを世に出し、売り出し中の新人監督だった。課長に誘われて同課の仲間たちと一緒に草津にスキーに行き、わたしは宿でその年流行った「史上最大の作戦」のテーマ曲を望まれるまま彼に口授したりした。

映画監督とのつき合いが増えたのは、むしろ新しく出来たテレビ局に転職してからである。昭和四十年以降のことで、映画は斜陽、制作の場を失った映画監督が仕方なくテレビにその場を求めた時代だった。あの数々の出会いは幸運だった。

わたしはよく覚えていないが、テレビ番組の制作をこころしたと何度かお目にかかり、単発のドキュメンタリーを二、二本と、たしか「刑事追う！」を二本撮っていた。仕事を離れたつき合いもあった。五月に亡くなった坂上は東映の同期生である。当時東映は事務職、技術職、芸術職と職種別の採用だったが、彼は事務職で採用されながら芸術職に紛れこみ、プロデューサーとして大成した。同期の出世頭である。プロデュース作品に「新幹線大爆破」「野性の証明」「鉄道員」はやぶさ、遙かなる帰還などがある。坂上の死んだ二日後、後を追うように降旗監督が亡くなった。降旗さんも東大出のエリート監督で、「鉄道員」あなたへ「駅」など数々の名作がある。

坂上がプロデューサーとしてえらいなと思うのは、監督と俳優をしっかりとつかまえていることだ。「新幹線大爆破」「野性の証明」「鉄道員」は主演高倉健、「新幹線大爆破」「野性の証明」は監督佐藤純彌、「鉄道員」は監督降旗康男である。亡くなった三人とは毎年年賀状のやりとりはしていたが、中身のある手紙は降旗さんがいちばん多い。わたしが誘ったリヴ・ウルマンの「不実の愛、かくも燃え」の試写会には「ホタル」の封切りのため韓国に行くので出席できない、ウルマンのパートナーだったベルイマンの「モニカ」を見て自分は映画監督を目指したという内容の葉書がある。降旗さんとはほくが一緒ににやりたいと誘っていたのだから




ふる はた やす お
降旗 康男
映画監督
1934-2019

長野県松本市出身。東京大学文学部仏文学科卒業後、1957年「東映」入社。1966年「非行少女ヨーコ」で監督デビュー。故高倉健氏とのコンビで「新 網走番外地」シリーズや『駅 STATION』（81年）『夜叉』（85年）などを手がけ、『鉄道員』（99年）では日本アカデミー賞監督賞・脚本賞を受賞。2002年に紫綬褒章、2008年に旭日小綬章を受章。享年84才。

たときかいいようがない。編成というセクションで番組のプランニングプロデューサーの役を仰せつかったわたしは、よるこんで映画監督との窓口役を引き受けた。数々の受賞に輝いた今村昌平監督の「未帰還兵を追って」、熊井啓監督の「不世出の大打者・王貞治」などはその成果の端である。

映画監督とのつき合いはサラリーマン晩年になっても減ることはなかった。佐藤純彌、降旗康男、長谷部安春、蔵原惟繕、松山善三、市川崑などの諸氏である。編成を担当していた晩期、予定調和に飽き足らないわたしは「刑事追う！」という刑事ドラマで名だたる監督に競作してもらったが、その折つき合いの出来た監督も数多い。

八十歳を過ぎて、他界する友人が急に増えたような気がする。昨年は古巣東映出身の監督とプロデューサーを三人も失った。降旗康男監督、佐藤純彌監督、そして坂上順プロデューサーである。佐藤純彌さんがいけば早く二月に亡くなった。純彌さんは、わたしが入社した昭和三十七年に「陸軍残虐物語」でデビューした。東大卒のエリート監督で、「新幹線大爆破」「敦煌」「君よ憤怒の河を渉れ」などの作品がある。おつき合いのきっかけ

う。「それには貴兄の存在が不可欠です」などと書いた葉書もある。最後にいただいたのは、わたしが初めて書いて送った恋愛小説「夏の岬」の返信である。

「御著拝受、拝読、ありがとうございます。フィクションへの転進、そのお若さがとても羨ましく感じられます。二十数年前、CM撮影で過ごしたポルトガルでの一月を懐かしく蘇らせていただきました。あらためてお礼もうしあげるとともにさらなるご発展を祈ります。(後略)」

わたしは、けっこう苦勞したわりに人間の心の屈折を描くことが不得手だ。「夏の岬」は、サラリーマンを退職した家族持ちの老人が山形の海岸で知り合った若い娘に恋をして、ポルトガルのロカ岬までの道行きを描いたものだが、多分、苦難に満ちた人生を強い意志をもって誠実に生きる人間を描き続けた降旗監督の感性にはすぐわなないものだったに違いない。しかし、忙しいなか、わたしの未熟な小説に目を通してくださり、短いとはいえ読後感を書き綴ってくださいました降旗さんの人柄は、彼の作品の主人公の律儀さをどこか髣髴とさせる。



著者略歴
うえむら としね
植村 鞆音 エッセイスト

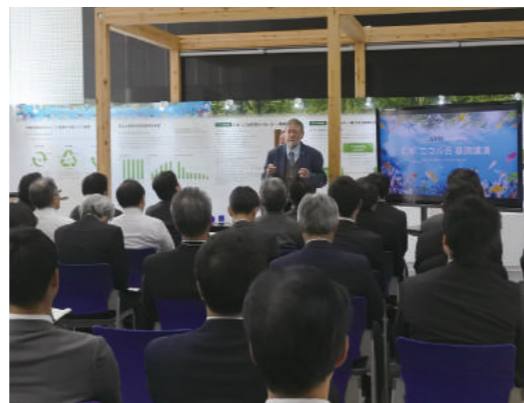
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年「直木三十五伝」で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年「歴史の教師植村清二」で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に「夏の岬」「気骨の人 城山三郎」など。

SPECIAL PROGRAM

C.W.ニコル氏 基調講演

2019年11月12日(火) KPP本社ビル1F

作家、ナチュラリストとして長きにわたって環境保護活動続けるC.W.ニコル氏を迎え、基調講演を行いました。C.W.ニコル氏は、日本本来の自然を取り戻し、子どもたちの笑顔あふれる豊かな社会をめざすことを使命として、長野県黒姫にある「アフンの森」と名づけた森の再生活動に取り組んでいます。KPPグループは同氏が理事長を務めるアフンの森財団のオフィシャルスポンサーとして、この活動を支援しています。当日の講演内容を一部抜粋・要約してご紹介します。



私がとても心配しているのは、若い世代が自然に触れ合う機会が少ないこと。人間は生まれてからいろいろな経験を通して12才くらいまで脳が発達しますが、自然からの刺激を受けていないと、脳の発達に異常がきたす可能性があります。カナダのブリティッシュコロンビア州やアメリカのオレゴン州をはじめ、英国、スウェーデン、ドイツなどでは約30年前から、小学生に起こったある変化が報告されています。「落ち着かない」「集中できない」「すぐ騒ぐ」「泣く」「友だちができない」「すぐ転ぶ」「転ぶとケガをする」などの不調が子どもたちの身に起こるようになった。当初は、環境ホルモンが原因として疑われましたが、脳の研究が進むにつれて、原因は「自然から遠ざかっていること」とわかりました。病名は「自然欠乏症候群」です。その子どもたちが大人になると、「友だちができない」「大勢の人と一緒にいかに作ることができない」「判断力が落ちる」ようになり、スマホから受け取る刺激に満足してしまうことで、「恋に落ちることができ



ない」などの弊害が生まれるのです。子どもたちは自分の国の自然の中で育たないとダメなんです。それが無理だったら、時間を見つけて川や森で遊ばせることが大事だと思っています。

私は22才の時にはじめて日本に来て、40才から長野県黒姫に住んでいます。(モニターを見ながら)私たちの「アフンの森」では、地元の間伐の力を借りて、36年前から放置された土地を少しずつ手当てしてきました。間伐してブナの木を植え直し、池も掘ってゴミで埋まった川をよみがえらせた。その結果、146種類の樹木とフクロウやムササビ、イタチなどの動物、たくさんの虫たちが共生する、多様性にあふれた豊かな森に生まれ変わりました。この小さな森には東日本大震災で被災した(宮城県)東松島市の小学生が訪ねてきてくれました。最初、一緒に来た大人たちの顔には疲れが見えていましたが、自分の子どもたちが森で無邪気に笑い、元気で遊んでいる様子を見たら、大人の顔にもほほえみが戻ったのが見えたんです。さまざまな生きものが豊かに暮らす森には、心を癒し、本来の自分を取り戻す力があるのです。私たちは

東松島市の方々と交流を続け、「震災復興プロジェクト」の取り組みのひとつとして、東北の間伐材だけでつくった宮野森小学校の校舎づくりや森づくり、特別授業などを行っています。私たちが小学生に行う授業では、森で育てた三椏(ミツマタ)や楮(コウゾ)を使って和紙づくりも体験してもらっています。子どもたちには紙ってどのようなものか、どれくらい歴史があるか、人類の文化は紙が支えていることも伝えているんですよ。僕は本をたくさん出しましたから、相当紙を使いました。「木」という字は切らないと(横線が入らない)「本」にならないんですね。私は「紙」にとてもお世話になっているし、これからもなるべくいい本を書こうと思っています(笑)。



講演の動画は、当社ホームページにもアップ予定です。

www.kppc.co.jp/



KPP Sustainable Times

持続可能な社会実現に向けて、循環型社会の構築をめざすKPPが地球規模で取り組むべきさまざまな課題やその解決に向けた取り組み、国内外の最新トピックスなどをご紹介します。

REPORT

第7回 KPP総合展示会 「持続可能な社会づくりのために」

2019年11月11日(月)～13日(水) KPP本社ビル1F・2F



持続可能な社会づくりに貢献する商品・サービス・アイデアを一挙紹介

2019年11月11日～13日の3日間、当社の1F エントランスホールおよび2Fを会場に、第7回 KPP総合展示会を開催しました。パネル、サンプル展示のほか、2日目にはC.W.ニコル氏の基調講演を行い、3日間で約800名の来場者をお迎えし、盛況のうちに終了しました。

今回で7回目となる展示会のテーマは「持続可能な社会づくりのために」。近年、世界的に注目されている海洋プラスチック汚染問題への対応や、環境負荷低減のための新たな取り組みを推進するKPPグループの「いま」をご覧いただきました。

当展示会では、(1)紙化 (2)減量プラスチック (3)バイオプラスチック (4)Green Biz Project (5)サーマルリサイクル (6)マテリアルリサイクル (7)持続可能な社会づくりに貢献できる商品・取り組み、という7つのセクションで会場を構成しました。おもな商品・サービスとして、高いバリエーションを有するリサイクル可能な紙素材、寒天メーカー開発製造のエコフィルム、LEDプリンターを活用した紙製平袋によるオンデマンド出力ビジネス、リサイクルが容易な段ボール素材の新たな用途など、環境負荷低減に寄与する素材や取り組みをご紹介いたしました。

これからも、KPPグループは紙の専門商社として、知恵と工夫でビジネスチャンスを具現化し、未来を切り拓いていく力「創紙力」によって、さまざまな視点からお取引先さまの新たなビジネスを創り上げていけるよう努めてまいります。



①2F展示会場の様子。パネルとサンプルの展示、担当者による説明を行いました。②会場を視察する田辺社長。③1F展示ブースでは、当社グループが協賛する「C.W.ニコル・アフンの森財団」による森林保全活動のほか、「CLOMA(クロマ)」、「プラスチック・スマート」などの活動団体、社内横断的に立ち上げられたプロジェクト「Green Biz Project」などを紹介。④当社が開発したバイオマス発電所の安定稼働を支援する「BM ecomi」も来場者の注目を集めていました。

▶ 銀座芋ROCKプロジェクトに参加しています

「銀座ミツバチプロジェクト」とは、2006年にスタートしたNPO法人の名称であり、ミツバチの飼育を通じて銀座周辺の自然環境と生態系を知るとともに、採れたハチミツ等で都市と自然との共生、地域の活性化とをめざす活動です。2015年には銀座屋上の緑化プロジェクトの一環として「銀座芋ROCKプロジェクト」を始動し、収穫したさつま芋を利用した芋焼酎を生産しています。

当社は、2010年から本社ビル屋上の菜園スペースを提供し、さつま芋の栽培に協力しています。今年も苗植えを実施し、11月に多くのさつま芋が収穫。なかには1180gの大きさのものもありました。



▶ 当社の古紙回収システム「タウンecomomo(エコモ)」が富山県の資源物回収拠点「エコ・ステーション」に認定されました

当社が事業展開する古紙回収システム「タウンecomomo(エコモ)」が、富山県の「エコ・ステーション」に認定されました。富山県では、循環型社会づくりに向け、民間事業や団体による常設の資源物(古紙)の回収拠点を認定。住民にその利用促進を図るために、富山県認定「エコ・ステーション(資源物の回収に取り組む拠点)」を公募しました。当社は、この公募に対して「タウンecomomo」36店舗を申請し、同県より認定証と認定銘板の交付を受けました。



カゴ車タイプの「ボスティングecomomo」(設置場所:VEDRUG蓮花寺店)



認定証交付式の様子



認定銘板



KPPの海外拠点にクローズアップ

出会う+

DEAU PLUS



DATA
25th Floor, Catic Plaza, 8 Causeway Road,
Causeway Bay, HONG KONG
TEL: 852-2511-2497 FAX: 852-2507-2034
E-Mail: sales@daieihk.com

DaiEi Papers (H.K.) Limited
Hong Kong Head Office

香港大永 香港本社



KEY PERSONS 01

営業

Angus Poon

アンガス・ポーン さん



Q1 担当している業務は?

「紙・板紙の貿易業務」

Q2 性格をひと言でいうと?

「外交的、謙虚」

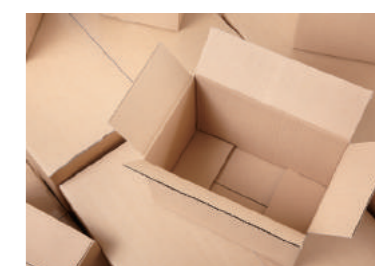
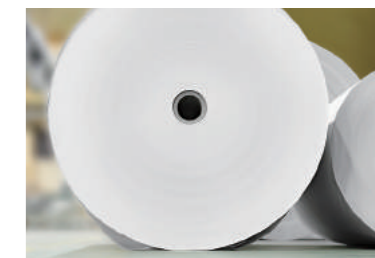
Q3 モットーは?

「自分を信じる」

香港大永で働きはじめて28年。同僚とともに長い年月を過ごすなかで多くのことを経験し、何よりたくさんの方々との友情を育むことができました。私はアウトドア派で、好きなサッカーをすることで心身ともに健康になり、仕事の問題解決にもつながっています。仕事を通して普段接することのないさまざまな方と出会い、人生がより豊かになりました。私にとって、家族や友人たちと楽しい時間を過ごすことが、何より最高の贈り物なのです。

OUR BUSINESS

香港大永は、香港、大陸南部、台湾の市場をカバーしています。グラフィック用紙やパッケージング用紙のほか、古紙の貿易や販売、そしてマーケティングソリューションをご提供しています。

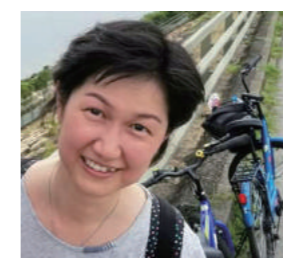


KEY PERSONS 02

財務

Polly Ang

ポーリー・アン さん



Q1 担当している業務は?

「経理総務業務」

Q2 性格をひと言でいうと?

「ひたむき、責任感が強い」

Q3 モットーは?

「経験は最良の教師」

香港大永の一員になって以来、一貫して経理畑を歩んできましたが、今後は総務業務を担当することになりました。新しい挑戦となりますが、恐れることなく準備を進めていこうと思っています。業務上の問題が発生した場合の対処法は、学校では教えてくれませんが、失敗から学び、過去の経験をつなぎ合わせて現実に対応することが大切です。失敗に直面するのは厳しいものですが、失敗からは必ず貴重な教訓を得ることができると信じています。

作る

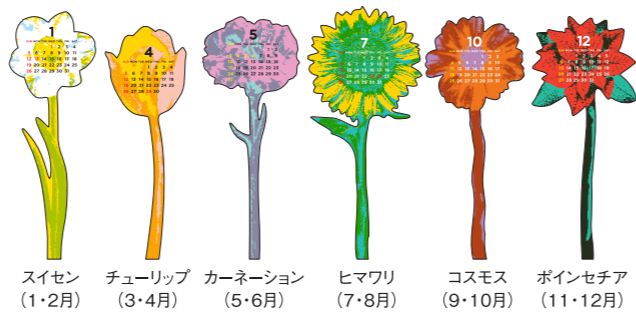
紙と触れ合い、モノを作る

「PAPERCRAFT on the DESK」

デスクに華やかな彩りを添える 「フラワーカレンダー」

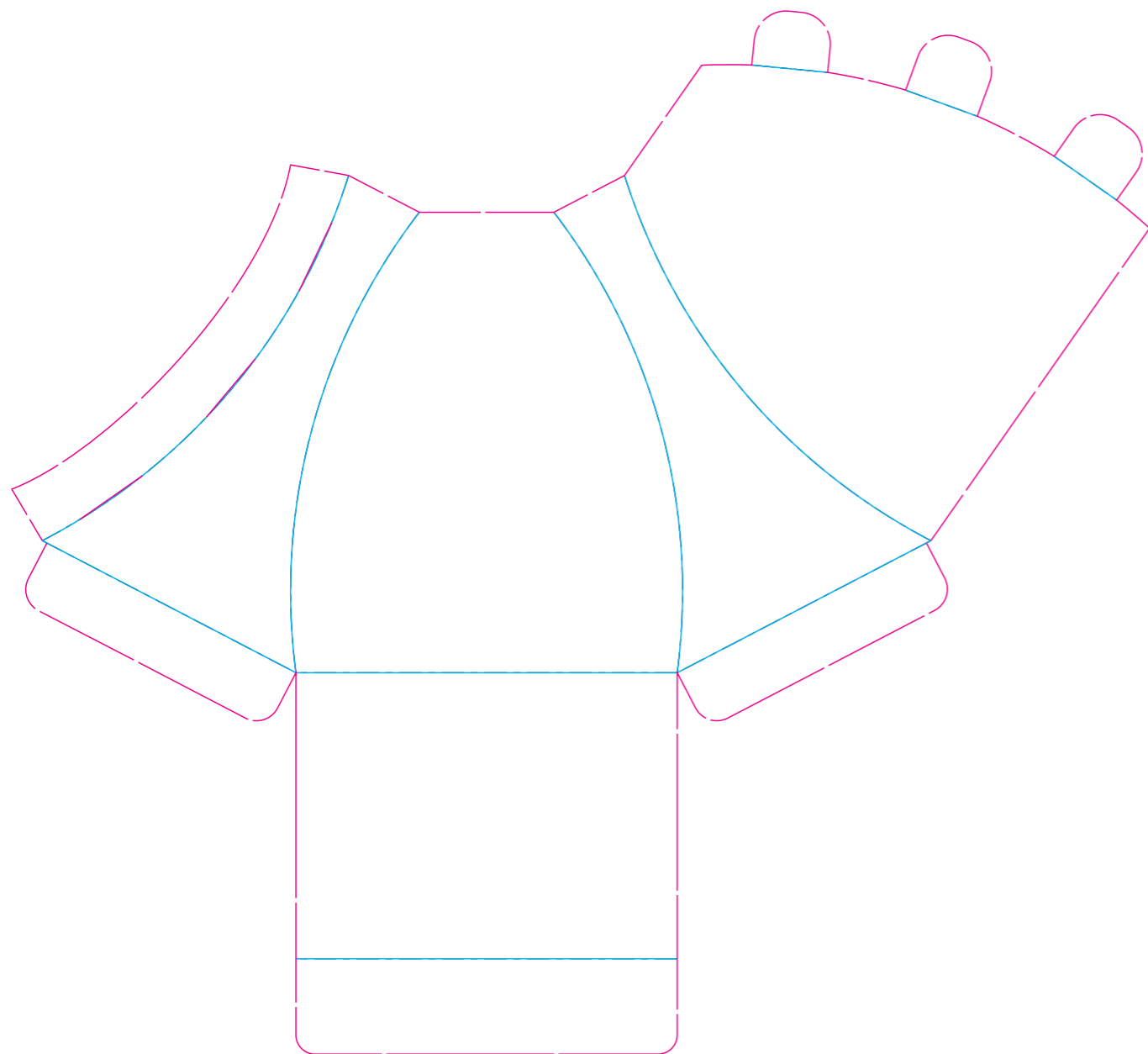
TSUNAGU
Original

飾り気のなく、雑然としがちなデスクに花束を。それぞれの花の見ご
ろがわかる、季節感のあるカレンダーです。花々の華やかな色彩が
ストレスを緩和し、疲れた心にリラックス効果をもたらします。



「作る」vol.42使用紙：北越アートポスト(256.0g/m²/北越コーポレーション株式会社)
ナチュラルで明るい白色感と高い平滑性により、印刷再現性に優れ、印刷面に美しいグロス効果を与えます。

谷折り線 -----



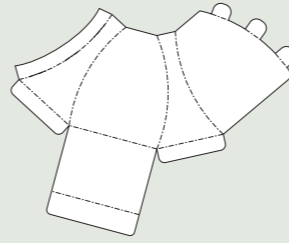
オモテ面



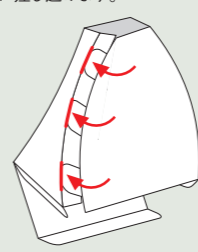
作り方

はじめに抜き型に沿って、すべてのフラワーカレンダーと花瓶を切り取ります。

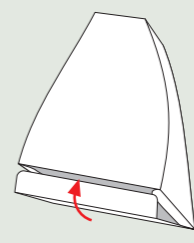
1 花瓶の谷折り線に沿って
すべて内側にしっかりと折ります。



2 しっかりと折ったら、図を参考に
して3カ所の突起を切り込み口
に差し込みます。



3 花瓶の底にあたる部分を
差し込んで閉じます。



4 花瓶を組み立て、
フラワーカレンダーを
差せば...

完成!



花瓶の内底に硬貨などの
重しを入れると安定します。
シールを貼ったりマスキング
テープで自由にアレンジし
て、自分好みの花瓶を作っ
てみてください。

